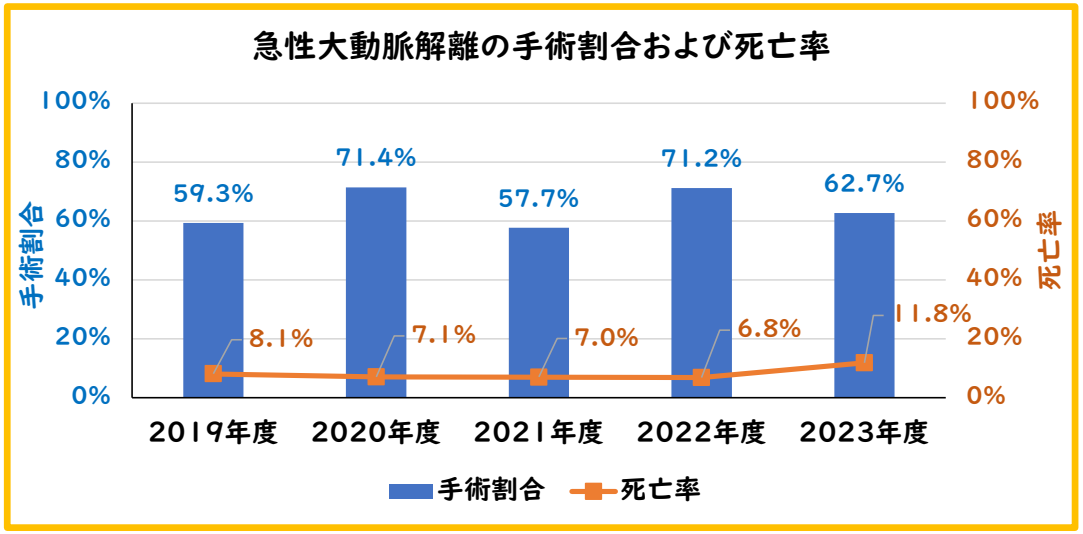
17 急性大動脈解離の手術割合および死亡率

心臓血管外科

◆解説◆

当院は県内でも急性大動脈解離の手術ができる数少ない病院の一つです。急性大動脈解離は現在でも死亡率が高く、早く正確に診断し速やかに手術を行うことが患者さんの予後に影響します。これらの過程には他科やコメディカルなどとの連携が必要です。この指標は当科が緊急手術に対応し、病院としてもチームで加療に取り組んでいる指標になると考えます。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

社会の高齢化に伴い大動脈解離の症例数は増加が見られます。それに伴い手術治療を必要とする患者数も増加しています。2020年の胸部外科の報告では急性A型解離の手術死亡率は全国で約10%であり、当院の成績は良好です。

最近ではJOINの使用により、他院からの搬送前に手術適応を判断することが可能となっています。緊急手術が必要な大動脈解離の場合は、大学病院への搬送後、直ちに手術室へ搬入できるケースもあります。それも死亡率低下に寄与していると考えます。

◆定義◆

急性大動脈解離(分母)のうち
①ステントグラフト内挿術または②大動脈瘤切除術または③オープン型ステントグラフト内挿術施行患者。そのうち死亡退院患者の割合